

須賀川市立長沼中学校・平成29年度学校通信

長中だより



第20号（平成30年3月20日発行）発行者 校長 小貫 崇明

☆今回で今年度の学校通信は最終号となります。1年間、この長中だよりをお読みいただきありがとうございました。（小貫）

○第55回卒業証書授与式～感動、感謝、そして涙～



3月13日（火）、第55回卒業証書授与式を挙行了いたしました。53名の卒業生は、長沼中学校の長い歴史の中でもすばらしい記録と記憶に残る3年生でした。

卒業式では、まず卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。校長式辞と教育委員会告示、来賓祝辞の後、すばらしい3年生が残してくださった伝統を引き継ぎ新たな歴史を作っていくことを約束した在校生代表の善方君の送辞、長沼中の卒業生という誇りを胸にさらに大きく羽ばたいていくことを

誓った高久君の答辞、どちらも心に残るすばらしい発表でした。

後半の全体合唱では、卒業生による「花束」、在校生による「蛍の光」、全校生による「旅立ちの日に」と「校歌」、それぞれが心を入れて歌われ、来賓の皆さんや保護者の皆様の中には目頭が熱くなりハンカチで拭う姿がありました。





〇ふたつの長沼ふれあいコンサート♪

東日本大震災からちょうど7年。3月11日（日）に、ダムが決壊という大きな被害を受けた長沼において実施された「大震災と藤沼湖の記憶をつなぐつどい2018」の一環として、長沼公民館で「ふたつの長沼ふれあいコンサート」が開催されました。

このコンサートでは、まず長野県長野市の長沼地区の皆さんによる太鼓や踊りが披露されました。途中、長野オリンピックのスピードスケート会場で使用された梵鐘を鳴らし、犠牲となった方々のご冥福を祈りました。その後、須賀川の長沼中特設合唱部による「桜づつみ」（長野市長沼地区も千曲川の決壊により多くの人命が失われたという悲しい歴史があり、地区を水害から守る堤には現在美しい桜が咲いているという歌）の発表をしました。歌詞を「奇跡のあじさい」にまつわる内容に替えて歌ったこともあり、参加された多くの方々が涙とともに感動されていました。ふたつの長沼が一つになったコンサートでした。



★大切にしたい言葉(20) 「また会ってみたいと思われるような人になりなさい」

ある先生が教え子に語った言葉だそうです。また会いたくなる人ってどんな人でしょうね。「笑顔が素敵な人」、「話していると元気がもらえる人」、「親身になって人の話を聞いてくれる人」、「知的好奇心がくすぐられる人」等々…そういう人たちのことだと思います。そんな人に出会えたなら、そんな人に自分になれたなら、きっと幸せでしょうね。

そして今、私は幸せです。だって、今年の卒業生をはじめ、たくさんの「また会ってみたい」、「将来の成長・成功した姿が見たい」と思える生徒にたくさん出会えたのですから・・・

※ 次年度も、「大切にしたい言葉」を連載していきたいと考えています。ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。4月からも長中だよりをお楽しみに！